

竹田で学ぶ～第70回瀧廉太郎を偲ぶ音楽祭 「竹楽」の魅力

竹田小通信

竹田で学ぶ 竹田に生き 竹田を拓く

2018年11月30日
文責 宗岡

毎年十一月一日に開催される「瀧廉太郎を偲ぶ音楽祭」は今年で七十回を迎えました。

音楽祭に出演した五・六年生は、「竹小PRIDE」を持って夏休みから取組を始めました。合唱のピアノ伴奏を任された子どもは、八月に渡された楽譜を前に十月には暗譜で弾けるように練習しました。他の子どもも運動会が終わると本格的な練習に入りました。

歌うことが好きな子どももそうでない子どもも楽器は苦手だと思っている子どもも合唱と合奏に挑戦します。みんなで一つの曲を創りあげ、披露する体験を成功体験で終わらせられるよう指導にも熱が入りました。

出来栄は、会場でも聞いていただいたり、ケーブルテレビで放送されたりした通りです。グランド竹田のステージで堂々と歌い演奏する子どもたちの姿は、自信に満ち、達成感を感じさせるものでした。ともに音楽を楽しむことで連帯感を深めつつ、一人一人が大切な存在であることを合唱や合奏を通して気づいてくれたようです。

第一回音楽祭は、竹田小学校のグランドピアノを岡城に運び上げ、音楽堂で開催したそうです。以来七十年間、途絶えることなく子どもの感性を醸成し、音楽の力を発信し続けてきました。これまでもこれからも響き渡る子どもたちの歌声と演奏は竹田の宝です。



第70回 瀧廉太郎を偲ぶ音楽祭

里山保全百年計画 「第十九」/百回「竹楽」で学 ぶ四年生

十一月十六日～十八日の三日間、今年も盛大に竹楽が催されました。竹田小学校の子どもたちは賑わいを楽しむだけでなく、主体的に関わり、町づくりについて学ぶ機会を得ています。四年生の総合的な学習や郷土学習で扱っています。

「なぜ竹楽を始めたのだろうか」「いったい誰が何のために、どのようにして始めた催しなのだろう。どれくらいの人がどんな思いを持って竹楽に関わっているのだろうか…等々様々な疑問を解決する為に、調べ学習を始めます。

里山保全百人会の皆様にゲストティーチャーとして授業していただいたり、点灯式に参加させていただいたりする中で、今まで見えていなかった竹楽に携わっている方々の姿やご苦労、思いに触れていきます。自分の竹灯籠を創り、情報は整理分析して文章に綴って行きます。

竹楽を楽しんだ後は調べたことや理解したことをまとめ、発信していきます。今、四年生は、説明文の学習を活かして、自分が捉えた竹楽を新聞にまとめる作業をしています。どんな新聞に仕上がるのか楽しみです。



四年生の作品



竹田市防災訓練十一月二十五日(日)

豊肥地区総合防災訓練が竹田市を会場に実施されました。大規模災害震度6弱の地震発生を想定した訓練では、関係機関、団体の連携や炊き出し訓練、避難所開設訓練等々、実践的な訓練がなされました。

竹田小学校の子どもたちは十三名が「JR列車脱線に伴う帰宅困難者」として訓練に参加させていただきました。

参加した子どもたちは、お世話いただいた消防署員の機敏な行動や参加者の緊張感ある物腰に、訓練の大事さを感じ取り、立派に務めることができました。災害時に通信会社や運送会社、自衛隊の果たす役割についても教えていただきました。

自然災害が多発する中、災害が何時どこで発生しても備えられるよう公助だけでなく、共助、自助できるよう防災意識を高める防災教育が求められています。



帰宅困難者訓練の様子